

初めての体育祭

体育委員は何度も何度も練習に向けてのリハーサルを行う。「台風の目」「個人種目」「学級対抗リレー」「綱引き」「棒引き」…。でも、何度も失敗ばかり。最初から、何を説明しようとしたのか、原稿を書かなければ説明などできるはずがない。ストレッチをするのに誰が音を出すことにしているのか、これもなかなか流れない。リレーを実施しようとするのに、アンカービブスもバトンもない。「棒引き」の説明をどこでするのか、リハとは違う場所で集合している…。「いったい何を準備したのか」と途方に暮れた。それでも、体育委員は毎日毎日準備をする。230人を前に、どうすれば全員に伝わる説明ができるのか、考える。説明しているときに、誰が見本を見せるのかを決めてやってみる。うまくいかないことが多い中、種目担当者だけに任せずに、他のメンバーたちも、一緒に何とか助けよう、準備をしようという動きが出てくる。みんなで協力して相談して、体育委員のチームワークはさらに深まっていった。

前日のぎりぎりまで、どこのクラスでも作戦が練られていた。「学級対抗リレー」の走順をどうすれば、バトンパスがうまくいくのか、最後の最後まで考えていたクラスがあった。「台風の目」の4人組も考えに考えた。棒だけがコーンの上を超てしまわないように、みんなで確認した。そして誰かの手が離れてしまわないよう、みんなで気を配ることも忘れないかった。障害物競走の動物たちのものまねも、何度も何度も確認した。走っていいのか、いけないのか、ぴょんぴょん跳ねるのか、歩くのか…。練習する、一生懸命な姿がとても素敵だった。

前日の学年練習を覚えているだろうか。朝の会で少し遅れてきたクラスを他の人全員が静寂の中、待つことができた。体育委員もほとんど打ち合わせのない中、確認するべき事を全て行った。体育委員が必死になって伝えようとする。その指示を集中して聞こうとする、お互いの力が合わさって創り上げられた最後の素晴らしい学年練習だった。

そして迎えた当日。全員が何とも言えない緊張感と高揚感の中でのスタートとなった。また、委員会ごとに役割があり、その役割を果たさなければ体育祭が滞ってしまう、そんな重責を担ってもいた。1組から7組まで、どこのクラスも「うまくいかない」ことにぶつかった。すべての種目において、「練習通りに努力したことが実を結ぶ」という結果ばかりではなかった。「あんなに頑張ったのに、あーダメだった、うまくいかなかった」そんな結果も飛び出した。緊張感の中にいつも以上の力を尽くそうとする本番では、様々なことが起こるものだ。でも、その「うまくいかないこと」を経験したことが、また君たちの宝物なんだ。「うまくいかないその時」「思うような結果にならなかった時」何ができるのか、できたのか。もうどうせ勝てないから適当に走るのか、頑張ったのにダメだったから、誰かを責めて終わるのか…。

得意も苦手も乗り越えて全力を尽くす。一人の失敗は、その人の失敗ではなく、ともに努力の日々を重ねた全員のもの。全員が力を合わせた結果なんだ。正々堂々と潔く、その結果を受け止めればいい。「うまくいかない」ことを経験するとね、自分たちだけが努力していたのではないことを知ることができる。同じようにうまくいかなかったことを思いやることができる。賞状をとったクラスだけが頑張ったわけではない、それはわかるね。様々なことを乗り越えて最後まで頑張りぬく。そのことに大きな意味があるんだ。クラスを超えて学年を超えて、全員がお互いの健闘を讃え合うことができる気持ちこそが大切だ。初めての体育祭を、仲間と協力しながら全力で頑張りぬいた、まぶしいほどキラキラしていた1年生の君たちに、大きな拍手を送りたい。